

8月20日（火）

大阪・サンパウロ姉妹都市提携50周年記念式典

午前9時45分にサンパウロ市役所に到着し、サンパウロ市関係者のお出迎えのもと1階のロビーに展示されている大阪市立田辺小学校1年生が描いた大阪城の絵画を視察した。これらの絵画は後日、サンパウロ市立オオサカシ小学校に寄贈予定となっている。

その後、市役所の会議室において、大阪・サンパウロ姉妹都市提携50周年記念式典に出席した。

まず、大阪市立田辺小学校の児童から、小学校を紹介するビデオメッセージが流され、和やかな雰囲気です式典が始まった。続いて、ルイス・アルヴァロサンパウロ市国際局長から大阪市代表团及び大阪市会代表团を歓迎する旨の挨拶を受けたのち、野口在サンパウロ日本国総領事から来賓挨拶、マウリシオ・デ・ソウザ氏から来賓挨拶、大阪市代表团を代表して中尾副市長が挨拶を行った後、ブルーノ・コーバス市長から挨拶があった。

【ルイス・アルヴァロ国際局長挨拶要旨】

皆さん、おはようございます。大阪市代表团の皆さん、ようこそサンパウロにお越しにいただいた。大阪・サンパウロ姉妹都市提携50周年記念式典に出席いただきありがとうございます。

大阪とサンパウロは1969年10月27日に姉妹都市提携され、文化、経済など様々な面での交流を目的に交わされた。現在、日本に住むブラジル国籍の方たちは20万人で世界第3位であり、ブラジルには200万人の日系人が生活している。これらの人と人との絆が私たちの関係の礎となっている。

今週は様々な式典が開催されるが、これはサンパウロと大阪のこれまでの良い関係の賜物と言える。これらの式典はビジネス、イノベーションなど経済面での関係をさらに深めるものとなる。私が5月に来訪した際には、大阪で温かく歓迎していただいた。同じようにサンパウロで皆様方を歓迎できればと思っている。

サンパウロ市と言え世界でも最も大きい日系コミュニティを誇る場所であり、半世紀にわたり様々な文化、技術、新しい事業で貢献していただいている。このような歴史的な絆が、人と人、民間、都市間、国の間でも更に深めることができるよう願っている。

【マウリシオ・デ・ソウザ氏挨拶要旨】

私は漫画家で、マウリシオ・デ・ソウザプロダクションを運営しており、最近、日本のオフィスを開設した。我々はビジネスだけではなく、特に社会福祉に力を入れて

いる。ビジネスと並んで、日本に住むブラジル人の子供が通う日本の学校に、ブラジルの子供たちが日本を知る様々な本や資料を提供している。

本日、贈呈させていただきたいと考えている本は、特別に日本向けに作成しており、いまお見せしている1冊目の本は、ブラジルから日本に来た子供たちが日本の学校の実態を知るためのものである。2冊目は日本へ行く家族向けの本で、日本へ行った時の習慣などを細かく知ることによって事前に準備することができるものである。3冊目は移民についての本である。日本からブラジルへ来た人とブラジルから日本へ渡った人を比較しながら冒険のような形で描かれている。現在は日本でのみ作成されているが、将来的にはブラジルでも発行したいと考えている。



本日は、これらの本を贈呈させていただきたいと考えている。

【中尾副市長挨拶要旨】

このたびは、大阪市会代表団、姉妹都市協会とともにサンパウロ市を訪れ、ブルーノ・コーバス市長、高木ラウル大阪・サンパウロ姉妹都市委員会委員長、野口泰在サンパウロ日本国総領事、マウリシオ・デ・ソウザ先生御臨席のもと、両市の姉妹都市提携50周年をこのように盛大にお祝いできることは大きな喜びである。

両市は1969年の姉妹都市提携以来、幅広い分野において交流してきた。今回の訪問にあわせて大阪市立田辺小学校の1年生が、サンパウロの皆さんにより大阪を知ってもらうため、大阪城の絵がサンパウロ市役所の1階に飾られている。

このように、両市の交流は行政レベルにとどまらない。大阪市立田辺小学校とサンパウロ市立オオサカシ小学校の姉妹校交流、大阪・サンパウロ姉妹都市協会とサンパウロ・大阪姉妹都市委員会によるスピーチコンテスト優勝者の相互派遣など、市民レベルの草の根交流まで広がっている。吉川会長、高木委員長を初め、この場をかりて改めてお礼申し上げます。

このたびは、両市の姉妹都市提携50周年を記念し、ブラジルで絶大な人気を誇る漫画家のマウリシオ・デ・ソウザ先生から、大阪に住むブラジル人の子供たちに向けて本やスタンプを寄贈していただくこととなった。ありがとうございます。

また、訪問中に、イノベーション都市・大阪の魅力について紹介するセミナーの開催や植樹式など様々な記念行事を予定している。サンパウロ市、姉妹都市委員会、総

領事館を初め関係者の皆様の多大なるご協力に感謝申しあげる。

2025年には国際博覧会が大阪のベイエリア夢洲という場所で「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして開催される。是非皆様お越しいただきたいと思っている。

先日6月末にはG20サミットが大阪で開催された。両市はG20に都市として提言するアーバン20加盟都市でもある。今後とも、両市がお互いの施策から学びあい、相互発展していけるように友好協力関係をさらに深めて参りたいと願っている。

両市の発展、友好関係の深化、本日御出席の皆様の御健勝、御多幸をお祈りし、挨拶とさせていただきます。

【ブルーノ・コーバス市長挨拶要旨】

中尾大阪市副市長、有本副議長、野口総領事を初めとする御来賓の方々の出席を心より感謝する。

私には日系の血は流れていないが、私の子供は日系人である。私が日本を訪れた時と同じように皆さんが自分の家にいるようにゆっくりとくつろいでいただきたい。

サンパウロ市と大阪市はそれぞれの国で政治的な中心都市ではないが、どちらも経済面で中心的な役割を果たしている。その中で、経済面、文化面においてお互いに大きな影響を与えている。したがって、姉妹都市提携50周年を記念するということは、両市の大きな成功を祝うことであると確信している。その成功例として、世界でまだ3カ所しかないジャパンハウスが、ここサンパウロ市にあるということ、また、オオサカシ小学校という名前の学校があることが大きく挙げられる。

両市の関係を振り返ると、我々にはまだ大きな御恩があると考えている。日本の方々がここに投資され、事業の面でも協力してくださった。そういった取り組みがあったからこそ、現在のサンパウロがあると考えている。我々はその御恩をいつ返せるかわからないが、深く感謝している。

こうした友好関係の中において、それを支えているのはお互いに敬意を表する気持ちだと思う。サンパウロの人々は日系の方々の忍耐強さを大きく評価し、尊敬している。これから50年先の100周年を祝うとき、私がここにいることと、これまで受けた御恩を返していることを希望している。ありがとうございました。

その後、コーバス市長と中尾副市長がそれぞれ記念品交換の後、記念撮影を行い、式典を終えた。



記念品の交換



記念撮影

**イビラプエラ公園・日本館訪問、大阪・サンパウロ姉妹都市提携
50周年記念植樹式、ブラジル日本移民開拓戦没者慰霊碑参拝**

イビラプエラ公園は、サンパウロ市政400周年を記念して作られたサンパウロ市内南部に位置する公園であり、その公園内に日本館がある。

日本館に到着し、大阪・サンパウロ姉妹都市提携40周年を記念して、大阪・サンパウロ姉妹都市協会が贈呈したみおつくしの鐘のレプリカを見学し、芳名録に記帳を行った後、日本館内を見学した。日本館は、桂離宮をモデルとして建築された建物で、木材の香りが漂い、池を泳いでいる鯉に餌やりすることができるなど、ブラジルに居ながら日本を感じることができる情緒ある建物である。

その後、公園内にて大阪・サンパウロ姉妹都市提携50周年を記念して、有本副議長、中尾副市長、吉川大阪・サンパウロ姉妹都市協会会長、ルイス・アルヴァロ国際局長とともに、また、続いて市会代表団も桜の木の記念植樹を行った。



記念植樹式の様子

続いて、ブラジル日本移民開拓戦没者慰霊碑を参拝した。

慰霊碑は、1975年にブラジル日本都道府県人会連合会により建立され、その碑文は田中角栄元総理大臣により揮毫されている。慰霊碑には大阪市、大阪市会代表団、姉妹都市協会の連名による供花を贈り、慰霊碑の礎石の下にある地下霊廟への参拝も行った。



ニッケイ新聞社の取材

昼食会場において、まず、国際担当より50周年記念事業について説明を行い、ニッケイ新聞社の記者からの取材に対応した。

主な質疑応答は下記のとおり。

- ・今回の交流事業に対する副市長の思いは。

(中尾副市長)

1969年に交流事業が始まり50周年という節目の年である。1996年をピークとして日本社会の人口は減っているが、周辺都市からの人口流入により大阪は人口が減っていない。その一方で子供の数は減り、65歳以上の高齢者の数は増えている。しかし早晩、大阪でも人口が減り、少子高齢化が進んでいくことになる。

そういう中で都市の活力を維持していかなくてはならないし、特にサンパウロは50周年を迎え、姉妹都市の中でも一番古く、過去の歴史も踏まえて交流を進めていかなければならない。

大阪では2025年に、1970年以来2回目の万国博覧会が開かれる。少子高齢化の中で開かれることから、健康で長生きできるようなものを目指した展示ができればいい。少子高齢化は世界の中でも大阪が最初に直面することから、世界の都市にどのようにして少子高齢化を克服したかを示していきたい。ブラジルも必ずそうなっていくと考えている。

・ブラジルの経済は波が激しいと言われるが、どのような交流が望ましいと考えるか。
(中尾副市長)

都市間の交流においては国の影響を受けてはならないと考えている。お互いに良いものを真似し、採り入れたいと考えている。大阪市とサンパウロ市は、アーバン20という会議の中で、都市間の共通課題について世界の大都市を含め話し合っており、もちろん姉妹都市間の交流も行っている。行政同士の交流に加えて、市民交流が進められていく中でどのようなお手伝いができるかを考えている。

・サンパウロとの交流事業に対する率直な思いは。
(有本副議長)

今回は平成20年に行った行政視察以来、2回目のサンパウロ訪問である。前回に来た時も高木ラウルさんを初め、なにわ会の皆さんなどと交流させていただき、移住された時の状況や、現在の日系社会の状況などをお聞きし、触れ合うごとに感じるのは、皆さんが日本人より日本人的であり日本愛に溢れ、日本人としてのアイデンティティをしっかりと持っている印象である。改めて自分たちも日本のことをしっかりと思わないといけないと感じる。

大阪は現在インバウンドの方が多く、大阪の人は海外の人に対して柔軟である。私が住む中央区では商店街があり、いち早くインバウンドを取り込み、現在では留学生を企業に紹介している。将来的にはそういう人たちが国に帰って、日本との交流の支えになっていただけることを期待している。

・教育に関して専門にされているのか。
(有本副議長)

専門ではないが、子育ての経験や孫がいる中で、自分の周りの社会を見ている中で感じたことである。私自身は海外が好きでよく行くが、そういう中で日本を見た時に、島国にいるからか視野が狭く、グローバルな視点が必要であると感じる。

以上で取材と昼食を終えた。

マウリシオ・デ・ソウザプロダクションズ訪問

大阪・サンパウロ姉妹都市提携50周年を記念し、日本の小学校に通う外国人向けの絵本やスタンプを寄贈していただいたマウリシオ・デ・ソウザ氏が運営するプロダクションを訪問した。

まず、会議室でマウリシオ・デ・ソウザ氏から歓迎の挨拶を受け、続いて中尾副市長から挨拶を行った。ソウザ氏の挨拶中には、代表作であり、日本でも発表の準備を進めている「モニカ&フレンズ」のキャラクターが登場し、会場を盛り上げる一場面もあった。

ソウザ氏の挨拶の後の質疑応答は以下のとおり。

・手塚治虫氏との交流のいきさつは。

(マウリシオ・デ・ソウザ氏)

手塚治虫氏は親友である。初めてお会いした時に故郷に連れて行っていただき、二人で何かできることがないかということを考え、手塚氏のキャラクターと我々のキャラクターと一緒に映像作品を作成した。二人で話していたのは、ストーリーの哲学を変えないということである。それは、子供向けであり、暴力的なものではなく、ポジティブなメッセージを発信するというものである。残念ながら手塚氏は他界したが、手塚氏のチームと協力し、最近、手塚氏のアニメとコラボした作品が日本で出版された。手塚氏は私にとっては兄弟のような関係である。

【中尾副市長挨拶要旨】

マウリシオ・デ・ソウザ先生におかれては、午前中から記念式典に御出席いただきありがとうございました。ブラジル出身の子供たちを温かく応援していただく作品であり、我々としても大切に使わせていただく。

舞台に並んでいる「モニカ&フレンズ」は、発表から50年以上経っているが、ブラジルで絶大な人気を誇ると聞いており、日本の子供たちにも受け入れられるのではないかと考えている。

今後とも、プロダクションにおける活動に力を入れられ、ブラジル、日本と言わずに全世界の子供たちに受け入れられるよう願っている。

この後、記念撮影を行い、漫画やアニメが作成される作業工程などについて説明を聞きながら、実際にプロダクションの中の職場視察を行った。



記念撮影



視察の様子

日系コミュニティ有志による歓迎会

午後7時より、ランショ・リオ・ドッセという川魚料理店にて、サンパウロ・大阪姉妹都市委員会が主催する日系コミュニティ有志による歓迎会が開かれた。

会場には、元サッカー日本代表選手であり、現在はサンパウロで活動中の三浦泰年氏を初め、翌日以降にお会いする予定の大阪なにわ会の方や日系人の元サンパウロ州議会議員の方など、幅広い分野の方々が出席していた。

中尾副市長から来賓挨拶、吉川大阪・サンパウロ姉妹都市協会会長から来賓挨拶の後、高木ラウルサンパウロ・大阪姉妹都市委員会委員長から乾杯の発声があり、懇談が行われた。

歓迎会では、世界最大の淡水魚である「ピラルクー」の丸焼きを初め、ブラジルならではの魚料理が振る舞われるなど和やかに歓談が行われる中、大阪・サンパウロ姉妹都市提携50周年を祝して記念品の交換が行われ、最後に記念撮影を行った。

